

協 議 会 議 事 概 要

第1項

協議会名	第2回 古川流域の総合的な治水対策協議会	
開催日時	平成30年11月20日(火) 14:30～	
開催場所	秋田河川国道事務所 2階 大会議室	
出席者	協議会委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所 所長 今野 敬二 ・秋田県 建設部 河川砂防課 流域防災監 鈴木 護 (秋田県建設部建設技監 代理) ・秋田市 上下水道局 副理事 今野 伝衛 (秋田市上下水道局理事 代理) ・秋田市 建設部 部長 平山 義尚
	協議会作業部会	・6名
	関係者	・関係職員 5名
	事務局	・3名
傍聴者	報道関係者	・3社
	一般傍聴者	・7名
主な協議項目	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みについての報告 ・氾濫解析モデルによる平成30年5月洪水の再現結果 ・浸水被害要因の推定 ・再現精度の向上に向けた課題 ・今後の検討課題とスケジュール 	

協 議 項 目	内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みについて ・質疑 ・氾濫解析モデルによる平成30年5月洪水の再現結果 ・浸水被害要因の推定 ・再現精度の向上に向けた課題 ・今後の検討課題とスケジュール ・質疑 	○作業部会	別紙資料により説明
	○各委員	特になし
	○作業部会	別紙資料により説明
	○鈴木委員	<p>今回は、平成30年5月豪雨による出水を再現したようだが、それよりも浸水被害が大きかった、昨年(平成29年)7月豪雨による出水をモデルとして再現しなかったのはなぜか。</p>
	○作業部会	<p>たしかに、浸水被害が大きいのは、昨年7月の方です。しかし、再現にあたり、昨年7月の洪水を受けて、浸水データのよりきめ細かな収集が必要なが解ったため、浸水深の確認箇所などのデータが多い、今年5月の出水をモデルとして、検証を行いました。</p> <p>まだまだ、精度を向上できる余地はありますが、ある程度、このモデルで浸水の状況を再現できることが解りましたので、平成29年7月出水についても、今後、シミュレーションを行います。</p>
	○鈴木委員	<p>そのシミュレーションの精度を上げるため、インプットするデータとして、雨量等の既存データのほかに、先ほどの説明にあった、古川の測量調査や雨水排水系統調査の実施などが必要であるということだが、各管理者が、調査を実施するということか。</p>
○作業部会	<p>この協議会の趣旨にもあるとおり、それぞれの役割を分担して対応していくこととしていることから、各管理者での調査の実施を考えております。</p>	
○平山会長	<p>いま、お話しに上がった、古川は秋田市の建設部が管理している河川ですので、市の建設部が調査を実施することとなります。</p> <p>シミュレーションの精度向上は、現況の治水安全度の評価や今後の目標設定、また、この協議会の最終的な目的である、より効果的で効率的な治水対策の選定につながると</p>	

(次項につづく)

協議項目	内容
・意見交換	<p>のことから、大変重要なものであると考えております。</p> <p>そのシミュレーションにインプットする調査項目については、次回の協議会において、示されるようですので、詳細な調査の実施は、その結果を受けてからの実施になると考えております。</p>
	<p>○今野(敬)委員</p> <p>事務局から、粗々ながらも解析モデルが出来たという説明があった。それに対して現地では、古川は州ざらいをやっている、猿田川もこれからやる予定、国の方も雄物川の河道掘削、樹木伐採に入っていくというようなメニューがある。そのメニューをこの粗々な解析モデルにあてはめていく。昨年7月の洪水の雨量を当てはめたら、どうなのかというのは次回の予定でよろしいか。</p>
	<p>○作業部会</p> <p>現況の状況で平成30年5月ではどうかということで合わせて行っています。</p> <p>それで、粗々のイメージが出来ましたので、次回には、平成29年7月を入れ込んで、対策した後にならぬかというのを出したいです。</p>
<p>○今野(敬)委員</p> <p>スピード感をもった取り組みが必要であるということは共通の認識であり、市・県・国でそれぞれの機関で出来る事からやり始めている。また、やる予定があるということは非常に良いことと思う。</p> <p>ただ、過去に浸水被害に遭われた方々は、古川の州ざらいとか河道掘削で終了するのではないかという不安があり、今行っている調査分析が遅いと指摘する方もいる。</p> <p>特に我々のOBが、仁井田の方にも何名か住んでいるが、その方々もいろいろなアイデアを提案してくれている。まずは浸水の状況と要因が何であったのかをしっかりと捉えることが、一番の近道であると思って進めている、まさにそこに時間が掛かっていたところである。</p> <p>現在、現況再現のモデルの作成に目途がついたので、今後はこのモデルの精度向上を高めてもらい、いろいろな方々から頂いている案、アイデアを含めて検討対象にしていきたいと思っている。</p> <p>一番懸念していることは、噂とか思い込みが一人歩きしてしまうことが気になっている。</p> <p>事務局の今後の課題にもあったように、全てが直ぐに出来るわけではないので、段階的な整備というものも踏まえていかないとならない。</p> <p>そのなかで、住民の方々には「対策をやるかやらないか」の議論をされると非常に困ってしまうので、段階的な整備の情報などを住民の方々に出していくことが非常に</p>	

協 議 項 目	内 容
	<p>大事と思っている。</p> <p>明後日（11月22日）大住地区での説明会があると聞いたが、そういった地元の要望に応じてしっかりとした情報を出していくことが大事なことと思っている。</p> <p>○鈴木委員</p> <p>今野委員からもありましたが、被害の要因、その追求というのは非常に重要なことであると思う。</p> <p>その上でモデルの精度の向上は古川流域の治水対策検討を制定する上で非常に重要な作業である。</p> <p>精度の向上のため今後の調査は各機関で分担して進めるということで県としても必要となる追加資料の提出については最大限努力していきたいと思っており、引き続き宜しくお願いしたい。</p> <p>○今野(伝)委員</p> <p>日頃は作業部会の立場なので、なかなか意見を発言するのは難しいが、今週の22日に、今野委員からもあった古川流域の大住町内でこれまでの取り組みの報告をする際、今回のこの資料では、専門用語が多いため、市民の立場からすると、とてもわかりづらいものと思われる。</p> <p>今後、さまざまな場面で市議であったり議会であったり、説明が必要となってくると思うが、もう少し、市民目線の立場から見た、かみ砕いて、わかりやすく、かつ、シンプルな資料作りを心がけて作成していきたいと考えている。</p> <p>○平山会長</p> <p>古川流域の治水対策、秋田市としても重要かつ緊急の課題であると捉えており、国・県・市の三者連携のもと、スピード感を持って1日も早くこの対策メニューをとりまとめ、実施につなげていきたいと考えている。</p> <p>本日、議論があった対策メニューのとりまとめには、シミュレーションの精度を向上させることが非常に効果的であると思う。</p> <p>それが対策メニューの設定に繋がる大変重要なプロセスであり、そこを可能な限り早期に取り組んでいきたい。</p> <p>話題の古川は市が管理する川であり、作業部会から説明があった調査を実施する事が必要であり、来年度の実施に向け、予算的なこともあり市の内部で、調整・検討を速やかに行いたい。</p> <p>また、今後も協議会が続くこととなりますが、スピード感を持って協議会の議論を進めていきたいと考えている。</p> <p>各委員の皆さま、各機関のご協力のもと、ひとつよろしく宜しくお願いしたい。</p>



協議会開催状況